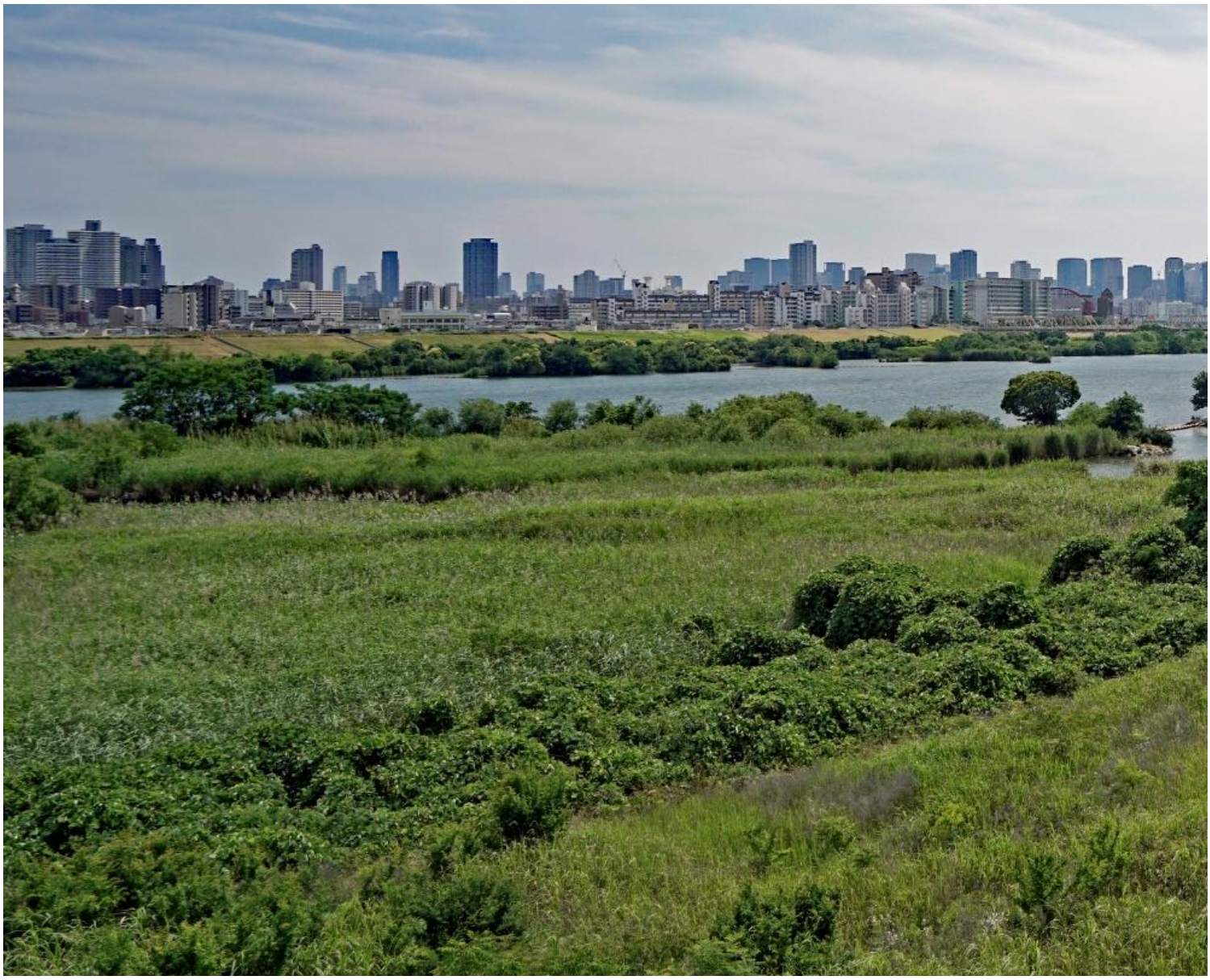
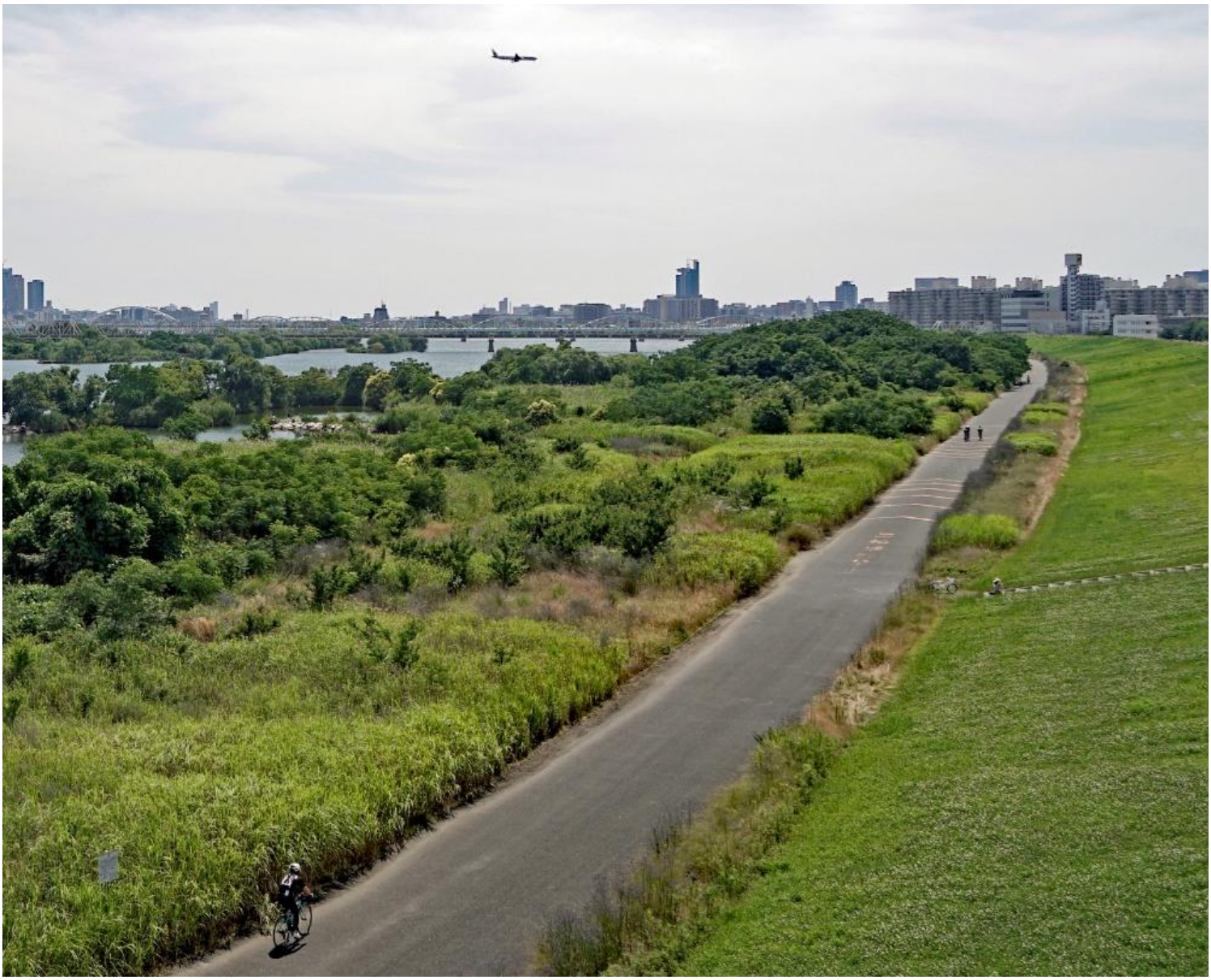
淀川の魅力ある
景観づくりに向けて

大阪府
平成31年３月



目次

はじめに …… P2
1.淀川の変遷 …… P3
2.淀川の景観
2-1 対象範囲 …… P5
2-2 景観の捉え方 …… P5
3.景観づくりの基本目標と基本方針
3-1 基本目標 …… P7
3-2 基本方針 …… P7
4.淀川の魅力ある景観づくりに向けた様々な取組み
4-1 淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み …… P9
4-2 景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み …… P9
4-3 淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み …… P10
4-4 淀川の魅力ある景観を多様な主体が多様な手段により効果的に情報発信 …… P10
むすび …… P11
参考資料　景観資源の活用事例 …… P12
淀川の魅力ある景観マップ１～３ …… P20



はじめに

大阪都市圏の都市空間創造に向けた大きな方向性を示すグランドデザイン・大阪都市圏では、広域連携型都市構造を踏まえた都市空間創造の例として、淀川において「沿川市町が持つ個性豊かなストックやポテンシャルを活かした様々な取組みを、関係者が連携して進めることで、一層の集客魅力あふれる都市空間を創造する」こととしています。

また、大阪府の景観形成の方向性を示す都市景観ビジョン・大阪では、「河川軸において、川とかかわりの深い周辺の歴史文化遺産等との調和やつながりを意識するなど、川との関係を活かした景観を形成するとともに、地域の特性や自然との共存、安全性に配慮した親水空間づくり、河川沿いの緑地の保全等を図る」こととしています。

さらに、淀川沿川を魅力あふれる都市空間とすることをめざし、沿川まちづくり団体等が自由に意見交換を行う場として設立された「淀川沿川まちづくりプラットフォーム（※P１１参照）」において「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」が策定され、魅力ある景観の形成に取り組むこととしています。

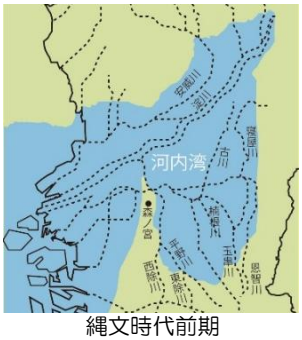
これらを踏まえ、淀川の魅力ある景観づくりを促進するため、自然、歴史・文化、沿川で営まれる様々な活動等の景観資源を広域的な観点から整理し、景観づくりにかかわるすべての人々が共有する基本目標や景観資源を活用した様々な取組み等を取りまとめた方針を示すものです。

２０２５年に大阪・関西万博の開催を控え、淀川が持つ景観魅力を多くの人に知って頂く絶好の機会であり、本方針を参考に、淀川にかかわるすべての人々が景観づくりに携わり、更なる景観魅力の向上につながることを期待しています。

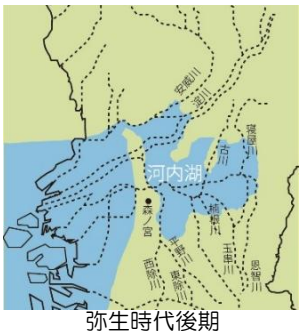
また、「淀川の魅力ある景観づくり」の取組みが、平成２７年の国連総会で採択された「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ※）」の達成に貢献することを期待しています。 ※Sustainable Development Goals

１.淀川の変遷

淀川は、その成り立ちとともに、古くから政治、経済、文化の中心として、様々な人の活動が営まれ、琵琶湖～瀬戸内海を結ぶ舟運のネットワークとして、多くの人や物が流域を往来してきました。

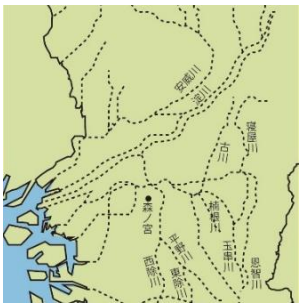


縄文時代前期
約7000年～8000年前



弥生時代後期
～古墳時代前期
約1800年～1600年前

江戸時代～明治時代
約400年～120年前



現代

○ 古代

およそ２万年前の大阪は、現在よりも海水面が低く、大阪湾や瀬戸内海は陸地でしたが、海水面の上昇により、海岸線が形成され、縄文時代前期になると、上町台地が半島のように突き出し、その東に河内湾ができました。縄文時代中期から、河内湾は、海面の後退とともに、北東から淀川、南東から大和川などが運ぶ土砂の堆積により徐々に埋まっていきました。縄文時代末期には、河内湾が大阪湾と切り離され、弥生時代中期には、淡水化し河内湖となりました。

古墳時代に入ると、中国大陸や朝鮮半島との貿易が始まり、淀川が合流する河内湖と瀬戸内海の間に運河（難波堀江）が掘削されました。この運河の途中に建設された難波津は、古代日本の玄関口としての役割を果たし、大阪は外交・交通の中心地となりました。

○ 中世

中世の大阪平野には、いくつもの川が縦横無尽に流れており、淀川は平安時代の頃から、瀬戸内海や西国と京の都を結ぶ交通の大動脈としての役割を担っていました。大阪は「水の都」として発展し続けましたが、その一方で、洪水がたびたび発生し、大きな被害に見舞われていました。

この頃の淀川には、いたるところに上流から流れてきた土砂が溜まってできた浅瀬があり、船の交通路としては不安定なものでした。このため、流域各地で、多くの住民が力を合わせ、川底に溜まっている土砂をさらったり、土地の埋め立てを行いました。また、淀川の水は農作にとっても重要な資源でした。

○ 近世

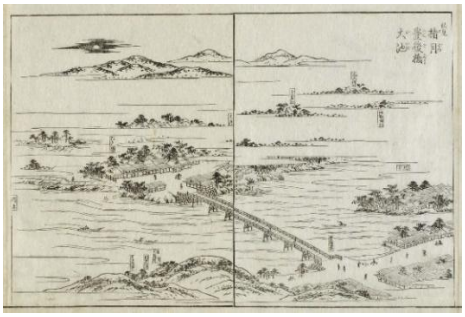
近世の大阪平野は、日本の政治・経済・文化の中心の１つであり、淀川はその発展の重要な基盤でした。

豊臣秀吉は、１５９４年、伏見城築城の際、伏見港の繁栄と巨椋池の洪水を防ぐことを目的とした「太閤提」を築きました。

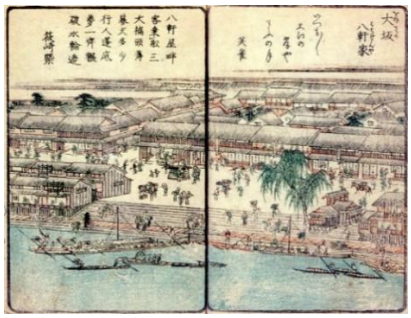
また、秀吉は、連続した堤防がなかった淀川左岸に、枚方から長柄に至る連続した堤防「文禄堤」を築きました。これにより、河内平野は氾濫から守られるとともに、堤防の上は、京街道として大阪と京都を最短で結ぶ安定した交通路となり、多くの人が行き交いました。右岸の西国街道とあわせて、街道沿いは宿場町として発展しました。

江戸時代に「天下の台所」として栄えた大阪では、縦横に流れる川が、物流ネットワークとして機能し、現在の大川・中之島付近には、諸藩の蔵屋敷が建ち並びました。大阪・八軒家から京都・伏見までを航路とする三十石船で、全国から大阪に集まった物資や物産は京の都へ、都の文物は大阪へと運ばれ、経済の大動脈としての役割を果たしていました。

こうして、淀川の恩恵を受けて、淀川両岸のまちが発展していきました。



大池 （巨椋池 ） 都名所図会
（資料提供：国際日本文化研究センター）



（八軒家）

（柱本）

淀川両岸一覧（1861年に描かれた名所図絵）

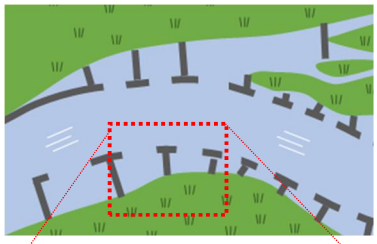
○ 明治期

明治期の淀川は土砂堆積によって川床が上昇し、航路として機能していませんでした。

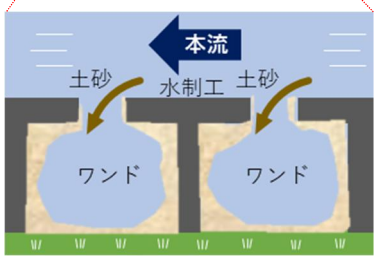
これらを解消するため、 明治8年から、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケが中心となり、日本で初めて水制工により、水路を蛇行させ、流れを緩やかにする淀川修築工事が行われました。これにより、川の流れは中央に集まり、蒸気船の航路の水深は確保されました。水制工に土砂等がたまり、偶然にもワンドが形成され、水生生物が育ちやすい環境ができました。

また、明治１８年の洪水による大きな被害で、明治２９年に河川法が制定され、上流から下流まで流域全体を見据えたスケールの大きい考え方に基づく淀川改良工事が始まりました。この工事では、新淀川の開削のほか、毛馬閘門と毛馬洗堰の建設などが行われました。

大阪市で上水道が通る明治２８年まで、大阪の人々は飲用水として淀川の水を飲んでいました。次第に、人々の生活用水の確保、伝染病の防止、火災への対応といった声に応えるため、淀川の水を水源とした上水道が開業しました。



水制工の平面配置イメージ



水制工によるワンド形成のイメージ

○ 昭和期～現代

淀川の水質は、生活排水や工場排水などが原因となり、昭和３０年代から急速に悪化しましたが、昭和４０年代以降、下水道整備が進められ、住宅からの排水が浄化処理されるようになったことで、水質は回復しました。これにより、河口域では、漁業が再開され、現在も大阪の食文化を支えています。

また、水制工によって、蛇行させられた淀川（写真Ａ）は、大阪を洪水から守るため、本流の幅が大きく広げられ、直線化（写真Ｂ）されました。その結果、洪水による被害は大幅に軽減されました。一方で、生き物にとって大切な湿地環境が減ることとなりましたが、献身的な住民の方々の取組み等もあり、その環境は少しずつ改善されています。

かつて盛んだった舟運は、自動車や鉄道の発展、橋梁の完成等とともに衰退していきましたが、近年では、観光船の定期便が復活し、今後淀川沿川の更なる発展が期待されています。

また、淀川では、河床維持のために、定期的に川砂の採取が行われており、コンクリートの材料として、高度成長期からハードづくりの礎を担い、舟運の航路確保にも欠かせないものとなっています。

現在は、自然豊かな地域から河川公園等の様々な活動がみられる地域まで多様な特徴を持ち、干潟やワンド等には琵琶湖・淀川水系の固有種や希少種を含む、様々な生き物が生息しています。

このように、淀川は人々の暮らしと密接にかかわりながら、私たちに様々な恵みをもたらしてくれています。一方で、淀川の歴史は、度重なる洪水などによる水害との戦いの歴史でもあったとも言えます。

写真Ａ：淀川の河道(１９７１年)
（国土地理院の空中写真を加工して作成）

写真Ｂ：淀川の河道(２００６年)
（国土地理院の空中写真を加工して作成）

淀川の希少種　イタセンパラ

シジミ漁
（写真提供：大阪市漁業協同組合）

献身的な住民の方々の取組み

大川の観光船

2.淀川の景観

淀川には、四季に富んだ自然や、様々な歴史・文化資源、時間帯や見る場所によって多彩な表情を見せる構造物や建築物があります。

また、これらの静の景観だけではなく、自然保全やにぎわいの活動、自転車や日常の人の動き、舟運や鉄道などの動の景観も、淀川の景観を考える上で重要な要素です。

そこで、淀川にかかわる「コト」すべてが景観づくりにつながると捉え、淀川で活動するすべての人々の取組みの参考となるよう、淀川の景観を捉える際の考え方を示します。

2-1 対象範囲

河口（淀川距離標0.00km地点）から伏見（三栖閘門付近）までと、現在、舟運が就航している、旧淀川である大川の一部（八軒家浜～毛馬閘門）を含む範囲とします。

2-2 景観の捉え方

景観を捉える上で、淀川本来の自然環境をベースに、目に見えるものだけではなく、景観資源がもつ、歴史・文化等の社会的背景やその成り立ちも含めて考えることが重要です。

また、淀川の治水・利水の機能や淀川が生物の生育の場であることを理解した上で、景観を捉えることが重要です。

そこで、淀川の景観資源を次の４種に分類して、淀川の景観を考えることとします。

①自然・生物　　：夕日・朝日、川面、ワンド、干潟、ヨシ原、野鳥、野草　など
②都市・インフラ　：橋梁、建築物、船着場　など
③歴史・文化　　：渡し船跡の碑、洪水碑、歴史的建造物　など
④活動・にぎわい　：河川空間を活用したイベント、舟運　など

「自然・生物」

「都市・インフラ」

「歴史・文化」

「活動・にぎわい」

さらには、景観は複数の要素（空、山、構造物等）の組み合わせによって構成されており、これらの関係（形、色、組み合わせ等）を意識し、季節、時間帯などの時間軸も考慮して景観資源の魅力を整理（夜景、夕日、桜、イベント等）することが重要です。

淀川の主な景観資源

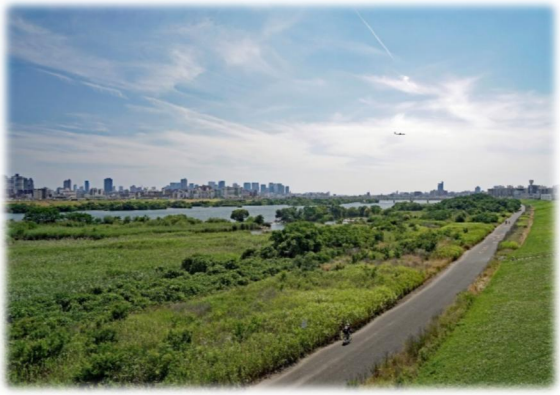
	自然・生物	都市・インフラ	歴史・文化	活動・にぎわい
遠景	□空（青空、星、月） □山並み □海岸 □夕日・朝日 □災害（増水など） □天候 （晴れ、雨、雪など） □川霧 □川面 （反射、波、きれいな水など）	□超高層ビル群 □大規模建築物等 ・さきしまコスモタワー ・梅田スカイビル ・グランフロント大阪 ・レッドホース オオサカホイール ・高圧鉄塔 など	□淀川両岸一覧 □都名所図会	□飛行機 □なにわ淀川花火大会
	□淀川河川公園 □法面の花、緑地 □ワンド □ヨシ原 □干潟 □背割提	□ひらかたパーク （大観覧車） □淀川河川公園 □浄水場 □橋梁 □水管橋 □淀川大堰 □閘門・水門・排水機場 □取水施設	□ひらかたパーク （大観覧車） □堤 □橋梁のライトアップ □神社仏閣 （石清水八幡宮　など） □旧毛馬第一閘門 □造幣局 □三栖閘門	□鉄道 □スポーツ ・サイクル　・ジョギング ・野球　・散歩 など □ワンド・ヨシ原保全活動 □舟運 □水上アクティビティ （カヌー、SUPなど） □水防活動
近景	□桜（紅葉） □遊歩道 □野鳥 □野草 （ススキ、彼岸花など） □昆虫 □水生生物 （カニ、貝など）	□煙突 □さくらであい館 □水位観測所 □緊急用船着場 □工作物 （看板など）	□渡し船跡の碑 □くらわんか発祥地碑 □洪水碑 □爆弾池 （□三十石船唄）	□河川空間を活用したイベント活動 ・淀川アーバンキャンプ、 ・淀川わいわいガヤガヤ祭 ・平成OSAKA天の川伝説 など □漁業 （シジミ漁、うなぎ漁など） □釣り

3.景観づくりの基本目標と基本方針

淀川の魅力ある景観づくりを進めていくためには、淀川で活動するすべての人々が誇りと愛着を持ち、沿川にある多様で魅力的な景観資源を守り、育て、活用していくことが重要です。
そこで、沿川の住民、まちづくり団体、企業等が景観づくりに携わる際の基本目標と基本方針を定めます。

3-1 基本目標

「大河川（だいかせん）・淀川（よどがわ）の景観魅力の向上を通じた、
多くの人が享受できる様々な恵みの保全と創造」


菅原城北大橋付近

背割堤の桜

3-2 基本方針

1 淀川の豊かな自然環境の保全や再生への意識を共有し、地域の特徴を活かした取組みの促進

ワンドや干潟の役割や保全活動の重要性について情報発信するとともに、自然が身近に感じられる取組みを促進することで、淀川への関心や愛着を育てます。

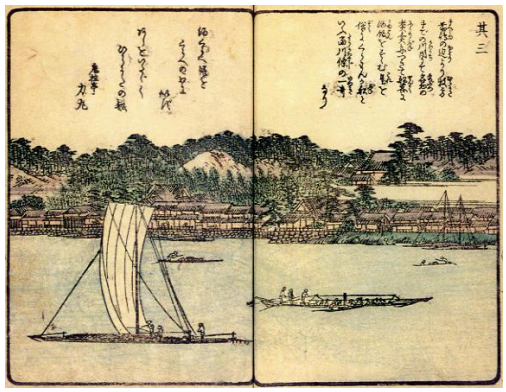
城北ワンド

清掃活動
（写真提供：ねや川水辺クラブ）

2 淀川の歴史や文化等のストーリー性を楽しめるようにすることで、景観資源の魅力を高める取組みの促進

景観資源が持つ歴史的な背景やその成り立ち等をあわせて発信したり、景観資源が持つ特徴を活かす工夫をすることで、多様な人々の関心をひく仕掛けづくりを行います。

三栖閘門



淀川両岸一覧

3 淀川沿川の多様な景観資源を効果的に活用し、多様な主体が連携しながら、川とまちが一体となったまちづくりの促進

多様な主体が連携し、川と人をつなぐ活動を継続的な取組みとすることで、新たな景観を創出し、景観魅力あふれるまちづくりを促進します。

淀川河川公園　枚方地区

緊急用船着場を活用したまちづくり団体間の交流

4 淀川の魅力ある景観を多様な主体により効果的に情報発信

淀川の景観魅力や各地域で行われている様々な取組みを、多様な主体が、多様な手段により、効果的に情報発信することで、他の方針にかかる取組み、まちづくりを促進します。

さくらであい館
（写真提供：八幡市）

まちづくり団体、企業等による情報発信

4.淀川の魅力ある景観づくりに向けた様々な取組み

淀川では、多くの住民、まちづくり団体、企業等が、魅力ある景観づくりにつながる活動に取り組んでいます。今後、更なる景観魅力の向上に向け、様々な主体がそれぞれの役割の中で、景観づくりに携わることができる取組みを示します。

なお、取組みを実施する際は、天候の悪化、河川の増水等に配慮し、安全性を確保することが重要です。

4-1 淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

○自然景観を維持・保全していくためには、沿川の住民や企業が担い手となり、自然保全活動等に取り組むことが重要です。そのため、淀川への関心や愛着を高め、自然保全に対する意識の向上を図る取組みを促進します。

- 学校や地域活動の場を通じた自然保全等の河川教育
- 企業と共同した清掃活動　など

○淀川の自然景観を楽しむことができる取組みや、河川空間が日常的な生活空間として利用される取組みを促進することで、淀川が持つ自然景観への関心を高め、自然保全の意識の向上を図る取組みを促進します。

- 地域住民参加で取り組む河川が日常的な生活空間として利用されるための仕掛けづくり
- 気球からの自然景観の観賞等、自然の雄大さを感じることができる新たな視点場の創出　など

地域団体による自然体験学習

企業等による清掃活動
（写真提供：ねや川水辺クラブ）

気球からの自然観賞
（写真提供：淀川河川公園管理センター）

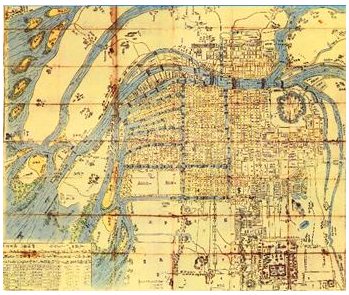
4-2 淀川の景観資源が持つ、歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

○目に見える景観だけでなく、過去の情景や歴史的な背景等をあわせて伝えることで、景観資源の魅力を高め、多くの人の関心を引く取組みを促進します。

- 景観資源が持つ歴史・文化的背景等の特徴を記した景観マップの作成
- デジタル古地図等の活用による船内コンテンツの充実
- かつての三十石船と同じ航路の観光船など更なる舟運の拡大　など

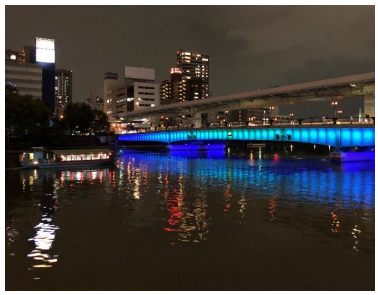
○景観資源に新たな魅力を付加することで、新たな景観を創出する取組みを促進します。

- 橋梁などの土木構造物をライトアップすることによる、新たな夜間景観の創出



新撰増補大坂大絵図（元禄4年）
（資料提供：大阪市立図書館）

舟運
（写真提供：一本松海運株式会社）



天満橋（大川）のライトアップ

4-3 淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

〇淀川が持つ景観魅力を感じながら、スポーツやレジャーを体験できる取組みが継続的に行われることで、人の活動そのものが淀川の新たな景観となるようにします。

・河川空間において、淀川の雄大な自然を満喫できるスポーツ大会、キャンプの実施
・淀川の魅力や河川ならではの体験ができるイベントの実施　など

河川空間でのマラソン大会
（写真提供：大阪・淀川市民マラソン）

ヨシ舟制作と淀川くだりの活動
（写真提供：水都の会）

淀川クルーズ
（写真提供：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会）

〇淀川周辺で行われているまちづくり活動やイベントと連携した活動やにぎわいを創出することで、新たな景観を創出するとともに、周辺のまちづくりにもつながる取組みを促進します。
取組事例：枚方宿におけるくらわんか五六市とみなと五六市の連携

みなと五六市

枚方宿みなと五六市マップ
（資料提供：淀川河川事務所）

くらわんか五六市

4-4 淀川の魅力ある景観を多様な主体が多様な手段により効果的に情報発信

〇行政、まちづくり団体、企業等が、景観の特徴や見ごろとなる季節・時間帯などを積極的に発信するとともに、沿川住民や来訪者がSNS等で拡散したくなるような情報発信を促進します。

〇情報発信の対象や目的にあわせて、人、もの、メディア、場所等の多様な手段による情報発信をおこないます。

人　　：環境学習・防災学習の場を通じた発信等
もの　　：包装紙裏面に淀川沿川の魅力ポイントを印刷してPR等
メディア：HP・SNSによる発信等
場所　　：観光スポット・イベント、電車等における発信等

河川学習

ＳＮＳによる情報発信

〇まちづくり団体や淀川に誇りや愛着を持ち情報発信に精通した人等と連携し、景観資源にまつわる地域固有の情報等を発見、発掘し、淀川の新たな景観魅力として発信します。

むすび

淀川の沿川で様々な活動に取組まれている、淀川沿川まちづくりプラットフォーム※1メンバー等の皆様が、本方針を参考に、景観づくりにつながる取組みを先導的に進めることで、他の企業やまちづくり団体等の取組みにつながることを期待しています。

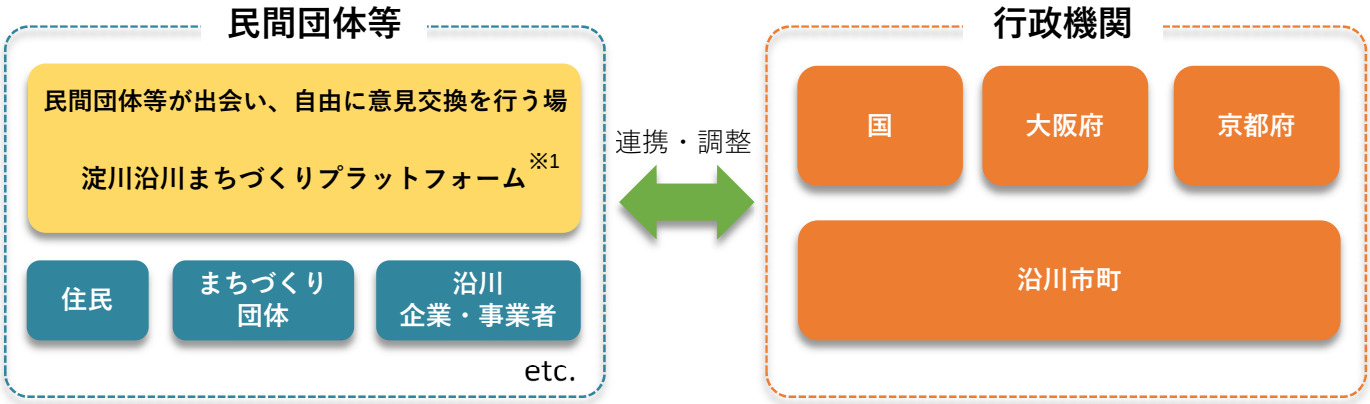
大阪府は、国や淀川沿川の自治体等と協力し、自然環境・景観の保全や都市インフラ・建築物の景観への配慮、各地域の取組みの相互交流等について調整を図ることで、これらの取組みを支援し、広域的な景観づくりを促進していきます。

本方針に記載の内容については、更なる淀川の魅力ある景観資源の発見、発掘に努め、必要に応じて更新していきます。

なお、大阪府をはじめ、各景観行政団体※2では、景観法に基づく良好な景観の形成に取り組んでいます。詳細については、各景観行政団体の景観計画、条例、方針等をご参照ください。

＜景観づくりの取組みイメージ＞

淀川で活動する人すべてが景観づくりのプレイヤー



※１ 淀川沿川まちづくりプラットフォームは、沿川のまちづくり団体や舟運事業者等で構成され、八軒家浜から枚方までの舟運復活を契機に、淀川沿川の将来像を共有することを目的とし、 2017年8月に発足しました。
淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進することを基本目標に掲げ、定期的に意見交換や連携事業が行われています。

【構成員】（令和２年３月　一部、時点修正）
・ＮＰＯ法人 伏見観光協会　・一般社団法人 八幡市観光協会　・大山崎ふるさとガイドの会　・ふるさと島本案内ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会
・公益社団法人　高槻市観光協会　・ＮＰＯ法人 枚方文化観光協会　・淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会　・ねや川水辺クラブ
・守口門真歴史街道推進協議会　・なにわ淀川花火大会運営委員会　・石清水なつかしい未来創造事業団　・京街道にぎわいづくり連絡会議
・大阪・天神祭実行委員会
・大阪水上バス㈱　・一本松海運㈱　・伴ピーアール㈱　・京阪ホールディングス㈱　・旅Tomo-Planning

【オブザーバー】
・国土交通省　近畿地方整備局　淀川河川事務所　・淀川河川公園管理センター　・京都府　・大阪府　・京都市　・八幡市　・大山崎町
・枚方市　・寝屋川市　・守口市　・島本町　・高槻市　・摂津市　・大阪市　・水都大阪コンソーシアム　・阪急電鉄㈱　・摂南大学

【事務局】
・大阪府　住宅まちづくり部　都市空間創造室

※２ 対象範囲内の市町のうち景観行政団体は、大阪市、寝屋川市、枚方市、高槻市、京都市です。その他の沿川の市町においては、大阪府の景観計画や独自の施策等により、景観行政に取り組まれています。

■参考文献

○国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所ＨＰ
（http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/index.html）

○水都大阪コンソーシアムHP
（https://www.suito-osaka.jp/index.php）

○一般社団法人大阪建設業協会HP
（https://www.o-wave.or.jp/public/history/history01.html）

○すみよし歴史探検地図「住吉歩けば歴史に当たる」P9
（http://www.city.osaka.lg.jp/sumiyoshi/page/0000078996.html）

景観資源の活用事例

＜淀川における事例＞

〇淀川水系一斉美化アクション

〇淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワークの活動

〇淀川まるごと体験会

〇日没時刻の紹介

〇淀川浪漫紀行

〇大阪・淀川市民マラソン

〇淀川アーバンキャンプ

〇淀川わいわいガヤガヤ祭

＜他の河川における事例＞

〇鈴鹿バルーンフェスティバル
/鈴鹿川 [一級河川]（三重県）

〇ライトアップ
/隅田川 [一級河川]（東京都）

〇七條大橋をキレイにする会の活動
/鴨川 [一級河川]（京都府）

〇遣唐使船レース
/嘉瀬川 [一級河川]（佐賀県）

〇こいのぼりフェスタ１０００
/芥川 [一級河川]（大阪府）

〇やすらぎ堤
/信濃川 [一級河川]（新潟県）

淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

事例：淀川水系一斉美化アクション

河川内には一部の利用者によるゴミの廃棄、散乱、不法投棄が見受けられ、河川管理・水辺利用・河川景観・公衆衛生の面から大きな課題となっています。淀川水系一斉美化アクション連絡会では、このような課題に対して、2016年度から「淀川水系一斉美化アクション」として、行政及び地域住民と連携し、活動に取り組まれています。

淀川水系（淀川・桂川・宇治川・木津川）の上流から下流まで、住民とともに一斉に清掃することにより、河川美化、水辺環境保全に取り組まれています。また、マナーアップの意識の共有を参加者に促し、ゴミを捨てない「ゴミの持ち帰り運動」へと発展させていくことを目的にされています。

平成30年度には、２月から３月の期間中に、淀川流域７エリアで、5311人の参加者とともに、約51tと1000袋（45l/袋）のゴミを回収される等、淀川が持つ自然景観を維持・保全されています。

写真提供：淀川河川事務所

＜取組み主体＞

〇主催：

・淀川水系一斉美化アクション連絡会

淀川流域７エリア河川美化活動主催団体
国土交通省淀川河川事務所（事務局）
河川管内河川レンジャー

〇後援：

関西広域連合、大阪府、京都府、京都市、
朝日新聞社、京都新聞、産経新聞社、毎日新聞社、読売新聞社(50音順)

事例：淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワークの活動

「淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク（略称イタセンネット）」は、淀川流域で活動する市民団体と研究機関、行政が連携し、「国の天然記念物イタセンパラを再び淀川に泳がせよう」を合言葉に生息地の淀川の自然再生・生物多様性を目指すネットワークで、2011年８月から17団体で活動を始め、現在43団体が城北ワンド群、庭窪ワンド群を中心に活動しています。

1970年初頭～2000年代の城北ワンドは、年代を追うごとに外来魚、特に在来魚に影響のあるオオクチバスやブルーギルが増えていて、相反するかのように在来の魚は年代を追うごとに減少し、2005年を最後にイタセンパラの生息も確認できなくなりました。そうした背景もあり、2012年４月から城北ワンド群で外来魚の定期駆除活動を開始されました。城北地区の数か所のワンドでは、在来魚の種類と数も増加傾向にあり、肉食性外来魚の抑制効果が少しずつ表れ、2013年に再導入されたイタセンパラも生息数を増やしてます。定期的に駆除活動を行うなど、淀 川の自然景観を維持・保全されています。

写真提供：
淀川水系イタセンパラ保全市民ネットワーク

＜活動内容＞

定期駆除活動（外来魚、外来植生）、外来魚駆除釣り大会、ゴミ清掃、見学会淀川の生物多様性に関する情報発信・広報、教育・啓発活動　など

事例：淀川まるごと体験会

寝屋川再生ワークショップからかかわられてきた寝屋川市駅前のせせらぎ公園の完成後、市内の水路の再生へと活動が広がり、生きものや文化を視野に入れた淀川の再生をしたいという想いが芽生えたことがきっかけで、淀川点野地区での活動を始められたそうです。

淀川まるごと体験会のイベントはその活動の１つで、２００８年から毎年夏に1回、参加者は１００名前後、スタッフも合わせると１５０人～２００人規模で実施されています。運営資金は、各団体の持ち出しを基本とし、資材も、市民団体、市役所、国土交通省等が各々で用意されています。主催団体の固定化と高齢化、資金面が課題のようです。

活動当初から点野地区が里川として整備されることを夢見て、まちづくりに市民が参加できる可能性を見つけるという志で取り組まれており、その献身的な活動を続けられたことも加味され、国土交通省の再整備のモデル地区に淀川沿川で唯一選定されました。

＜取組み主体＞

〇主催：
- 淀川まるごと体験会実行委員会
  - ねや川水辺クラブ
  - 摂南大学エコシビル部・石田ゼミ
  - 大阪府「私の水辺」大発表会北河内実行委員会
  - ねや川ユースネット
    - 摂南大学/大阪電気通信大学/ねや川水辺クラブＪｒ.
    - 大阪府立大学工業高等専門学校、
    - 大阪府立西寝屋川高校生物部、
  - 淀川管内河川レンジャー

〇協力：
- 水辺に親しむ会
- 寝屋川市自然を学ぶ会
- 株式会社 エクセディ
- 淀川左岸水防事務組合点野分団
- 淀川河川公園管理センター

〇支援：
- 国土交通省淀川河川事務所
- 大阪府
- 寝屋川市

＜実施プログラム＞
- Ｅボート、カヌー、ＳＵＰ体験
- 土のう積み体験
- レンガアーチづくり
- ヨシのコースター作り
- 清掃活動

など

事例：日没時刻の紹介

梅田スカイビルの空中庭園展望台

淀川の夕景の魅力を体感してもらうため、自社施設内で日没時刻の紹介を行い、淀川の自然景観を楽しむ利用を促進されているものです。日没時刻を紹介するようになったきっかけは、淀川に沈む雄大な夕景をみなさまに見ていただきたいという想いからだったそうです。

日没時刻の掲示板を導入してから、徐々に夕景を目当てに来館される方も増え、最近では海外からの旅行客の方も来られるようになりました。大阪を代表するこの景観が世界に向けて発信されていくことを期待し、運営されています。

＜取組み主体＞

積水ハウス梅田オペレーション株式会社

写真提供：積水ハウス梅田オペレーション株式会社

淀川の景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

事例：淀川浪漫紀行

舟運を復活させるクルーズを始めるきっかけには、阪神淡路大震災が関係していました。大規模地震が発生した場合、道路、鉄道等が寸断されるおそれがあり、救援、機材の運搬等に水上交通が大変役立つとされているからです。2006年から試験的に運航され、2017年9月から淀川浪漫紀行の運航が開始されました。

その特徴のある船は、明治時代に淀川を往来した川蒸気船をモチーフとして作られたものです。

災害時も見据えながら、通常は淀川沿川の自然と歴史を再発見していただきたいという想いで運行されています。

＜取組み主体＞
〇主催：大阪水上バス株式会社
〇後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所
・大阪府　・枚方市　・枚方文化観光協会
・淀川舟運整備推進協議会　・北大阪商工会議所
〇協力：丸万寿司 / 割烹 藤

＜船内プログラム＞
・語り部による流域にまつわる歴史内容の等のアナウンス
・三十石船唄の演奏　など

写真提供：大阪水上バス株式会社

淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

事例：大阪・淀川市民マラソン

大阪・淀川市民マラソンは、市民の参加および完走する事に意義を求め、市民自らがつくりあげる市民参加型のマラソン大会として1997年から毎年11月に開催され、2018年度で第22回となります。このマラソンは老若男女を問わず、勝つ事、速く走る事を主目的とせず、誰もが気軽に楽しめるマラソンで、日本で初めての市民による手作りの市民マラソンであるとともに、河川敷のみを走る日本で最初のマラソンでもあります。

初回は、2千人弱の参加者数でしたが、第14回以降は、１万人以上の参加者数を維持されています。その魅力の１つに、普段は通れない「淀川大堰」を渡ることができることも挙げられます。

また、大会当日は参加される皆さんに一日「淀川美化委員会」として、淀川河川敷にゴミなどを放置しないような取組みも行われています。

コースである淀川河川公園を走る事により淀川流域の自然環境を見直し、ランナーの健康と走る環境を考えたエコマラソンを目指されています。

＜取組み主体＞
〇主催：大阪・淀川市民マラソン実行委員会
ボランティアスタッフ

＜実施プログラム＞
・フルマラソン　・ハーフマラソン
・団体フル　・団体ハーフ

※団体は５人1チームとし、5人の平均タイムで競われます。

写真提供：大阪・淀川市民マラソン実行委員会

事例：淀川アーバンキャンプ

「淀川の活性化と賑わい創出に向けた提言(大阪商工会議所)」を受け、2015年9月から取り組まれ、毎年開催されています。

公共空間である淀川河川公園西中島地区を利活用し、淀川の魅力の向上が図られています。

都心にいながら自然を楽しめる取組みで、2018年にはこれまでなかった河川空間で泊まれるプログラムを実施されました。

写真提供：淀川河川事務所

＜取組み主体＞

〇主催：
国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所・大阪商工会議所

〇共催：
第１回のみ国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所

＜実施プログラム＞

- グローイングアップキャンプ
- 手ぶらでセレクトキャンプ
- カヌー体験
- SUP体験
- Eボート（10人乗り手漕ぎボート）
- パラグライダープチ浮遊体験

など

事例：淀川わいわいガヤガヤ祭

淀川の河川敷を活用した子供の教育、子育て層の親子のふれあい憩いの場づくり、スポーツを通じた青少年育成を目的に2012年から毎年開催されています。

企業からの寄付を基本に運営されており、第8回目には約6500名の来場者がありました。

淀川右岸流域の事業者、団体、市民の憩いの場とし、絆を深めるとともに、防災、安全、環境、歴史、文化、福祉等を考えるきっかけづくりとなるようなイベントを行い、淀川右岸流域の地域文化の発展、活性化に寄与されています。

＜実施プログラム＞

- 淀川に関するイベント
（淀川クルーズ、水上オートバイなど）
- 防災関連コーナー
- 青少年育成、遊びコーナー
（ミニ電車、木工教室など）
- スポーツコーナー
（フットサルなど）
- 演奏、演舞、演芸
（大道芸、紙芝居など）　など

＜取組み主体＞

〇主催：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会
〇共催：淀川河川公園
〇後援：国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所
環境省近畿地方環境事務所 ・ 大阪府 ・ 摂津市
摂津市教育委員会 ・ 摂津市自治連合会
摂津市老人クラブ連合会 ・ 摂津市商工会
摂津ロータリークラブ ・ 摂津ライオンズクラブ
摂津市ＰＴＡ協議会 ・ 一般社団法人摂津青年会議所
ＮＰＯ法人日本防災士会 大阪府支部 摂津地区防災士会
摂津市国際交流協会
〇協力：地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所
生物多様性センターサポートスタッフ ・
自衛隊大阪地方協力本部 ・ 大阪銘木団地 ・
大阪銘木青年会
各校区連合自治会：鳥飼・鳥飼北・鳥飼西・鳥飼東
味生・別府

写真提供：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会

川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

事例：鈴鹿バルーンフェスティバル/鈴鹿川 [一級河川]（三重県）

鈴鹿バルーンフェスティバルは1992年に初開催され、2018年で27回目でした。当初、中部地方で熱気球がフライトできる場所を探していた中で、自然環境と都市がバランスよく共存した鈴鹿市が候補地となりました。以来、鈴鹿バルーンフェスティバルには全国からパイロットが集まり、大空を色とりどりの気球が彩る秋の風物詩となっています。

メイン会場となる河川緑地では様々な催しが行われ、来場者に楽しんでもらうための一つに体験搭乗を実施されています。河川緑地会場では限られた時間の中でできるだけ多くの方に体験してもらうことと、少しでも多くの熱気球を見てもらう目的で熱気球５機で係留されており、上空から自然景観を楽しむことができます。

熱気球や競技を見に河川緑地会場または鈴鹿サーキット会場へ来場する方々は３日間で約16万6千人（2018年実績）でした。

今後も市民をはじめ、皆さんに熱気球と自然景観の魅力を知ってもらいたいという想いで活動されています。

＜取組み主体＞
鈴鹿バルーンフェスティバル実行委員会

＜利用内容＞
- 搭乗料金：中学生以上2000円、小学生1000円
  未就学児は保護者1名につき2名まで無料
- 搭乗人数：3,4人程度
- 搭乗時間：5～6分

＜係留飛行の条件＞
- １機あたり50m×50m程度の場所（地上及び空中に障害物がないこと）
- アンカー車両の乗り入れ可であること（3～4台／機）

写真提供：鈴鹿バルーンフェスティバル実行委員会

川の景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

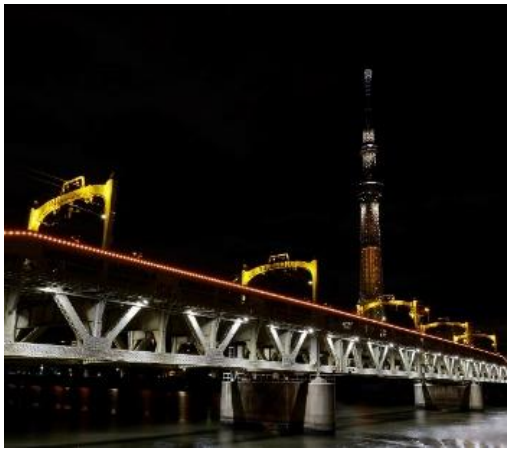
事例：ライトアップ/隅田川 [一級河川]（東京都）

東武鉄道では、東武グループ中期経営計画の成長戦略において、集中投資を行う重点エリアを４か所定められており、その１つが浅草・東京スカイツリーエリアです。このエリアの賑わいの創出と回遊性の向上を目的として、「四季折々、浅草と東京スカイツリー®をつなぐ色彩の架け橋」をコンセプトに、東京都の支援のもと、2018年から自社管理橋梁（隅田川橋梁）のライトアップを開始されました。

ライトアップは、東京スカイツリーや隅田川を運行するクルーズ船等、浅草・東京スカイツリーエリアの様々な場所から見ることができ、沿線魅力向上、夜間景観の向上に寄与されています。

また、ランドマークである東京スカイツリーのライティングとのコラボレーションや桜まつり等の四季折々行われる地域のイベント等に応じたライトアップ等、相互連携により景観魅力を向上させる工夫もされています。

＜取組み主体＞
東武鉄道株式会社



写真提供：東武鉄道株式会社

事例：七條大橋をキレイにする会の活動/鴨川 [一級河川] （京都府）

2013年にNPO京都景観フォーラムや地元住民の方で竣工１００周年を祝った七条大橋ですが、七条大橋への関心はなかなか広まらず、しばらくは草やゴミだらけだったそうです。そこから、市民でできることで七条大橋をキレイにしようと、2015年７月７日に、有志12名で清掃活動を始められました。

以降、七条大橋の魅力をたくさんの方に知っていただくことを目的に、毎月７日の９時に清掃活動を行われています。現在、徐々に周辺の住民、事業者、行政関係者、遠方のファンなどが参加され、毎回約50名の方が参加されています。さらに、始めは様々な動機で来られていた参加者同士が七条大橋がつなぐご縁でつながっていき、コラボ企画なども生まれています。

運営の初動期から市の助成金で活動を行っていたそうですが、徐々に自己資金で賄えるようにされています。また、2018年に行ったライトアップは寄付金も募られました。

さらに、当初は七条大橋の価値はあまり認識されていなかったそうですが、活動を進めるにつれ応援してくださる方が増え、市の様々な働きかけもあり、2018年11月に、国の登録有形文化財になることが決まりました。

写真提供：七條大橋をキレイにする会

＜取組み主体＞

〇七條大橋をキレイにする会

＜活動内容＞

- 毎月7日 9時から定期清掃活動と交流会
- 広報宣伝活動…パンフレット作成、facebookでの情報発信、絵葉書・缶バッチ・てぬぐい作成、ミニ講座、各種イベント（ライトアップ他）　など

事例：遣唐使船レース/嘉瀬川 [一級河川] （佐賀県）

鑑真和上が佐賀の嘉瀬に上陸したことにちなんだ、歴史・文化を活用し、川と人とを繋ぐ手漕ぎ船レースです。１９９７年から毎年8月に開催し、 2018年度で第22回となります。船は、当時の遣唐使船を模したもので、１チーム12～16名で構成され、45～50チームが参加されています。運営（資金源）は、協賛金で運営されています。

また、大会前日には、「親水事業」の原点である「川をきれいに大切に」の呼びかけのもと、レース会場及び嘉瀬川堤防で清掃活動が行われています。

毎年、選手団は県内外から毎年出場のベテランチーム、初出場チーム、ほか外国チームの参加もあり、会場全体から盛んな声援拍手の中接戦を繰り広げられ、家族や友人同士の親睦、官・民の事業運営協力、異業種交流の場となっています。

今後のボランティア活動も盛んになること、歴史が伝承されていくことを期待し、活動が行われています。

写真提供：一般社団法人佐賀市観光協会

＜取組み主体＞

〇主催：
　さが鑑真和上まつり遣唐使船レース推進協議会
（スタッフは、産・官・民のスタッフ）

＜実施プログラム＞

- 遣唐使船レース

＜参加内容＞

- 10,000円 / チーム
- 1チーム選手12～16名まで
- コースL=500m（250m往復）

川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

事例：こいのぼりフェスタ１０００/芥川 [一級河川] （大阪府）

子どもたちが健やかに育つことを願うとともに、高槻の都市シンボルである芥川の河川愛護とふるさと意識の高揚を目的に、毎年、ゴールデンウィークを中心とした約２週間、１０００匹ものこいのぼりが芥川上空に掲揚されます。掲揚されるこいのぼりは、市民から寄贈されたものや市内の幼稚園児などによる手作りこいのぼりです。

このイベントは、１９９２年以降、四半世紀以上にわたって開催され、市民に身近な事業として根付いてきました。現在では、近隣自治会や高槻青年会議所など、１２の地元団体が主体となって創設した「こいのぼりフェスタ１０００推進協議会」によって運営されています。また、２０１８年には、約１２０もの企業や団体から協賛をいただくなど、地域が支えるイベントとしても成長してきました。

４月２９日（祝日）に開催されるイベントでは、子どもたちが楽しめるイベントとして、ダンスパフォーマンスなどのステージ企画や青空店舗などが出店され、多くの人々で賑わっています。

写真提供：高槻市

＜取組み主体＞

〇主催：こいのぼりフェスタ１０００推進協議会

事例：やすらぎ堤/信濃川 [一級河川] （新潟県）

左右岸の河川敷きで、食事を楽しめるエリア、健康をサポートするエリアを特色位置づけ、市民や企業、行政が三位一体となって、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しい賑わいを創出しています。

株式会社スノーピークによる管理は2017年からで、事務局は2名、その他、新潟市役所まちづくり推進課のご担当者様と営業期間中に出店頂く出店者様（10店舗～）など多くの方々の協力や思いで成り立っている事業です。

2018年の営業期間は、7月1日～10月14日の間で、事業計画は前年の年末から継続して立てられ、関係各所との調整等を慎重に行われています。

また、営業期間中は悪天候時などの現場対応等も事業の中で大きな配慮事項になっています。

その甲斐もあって、毎年3万人を超える利用者が訪れ、そのアンケートの結果からも満足いただけているようです。

写真提供：株式会社スノーピーク

＜取組み主体＞

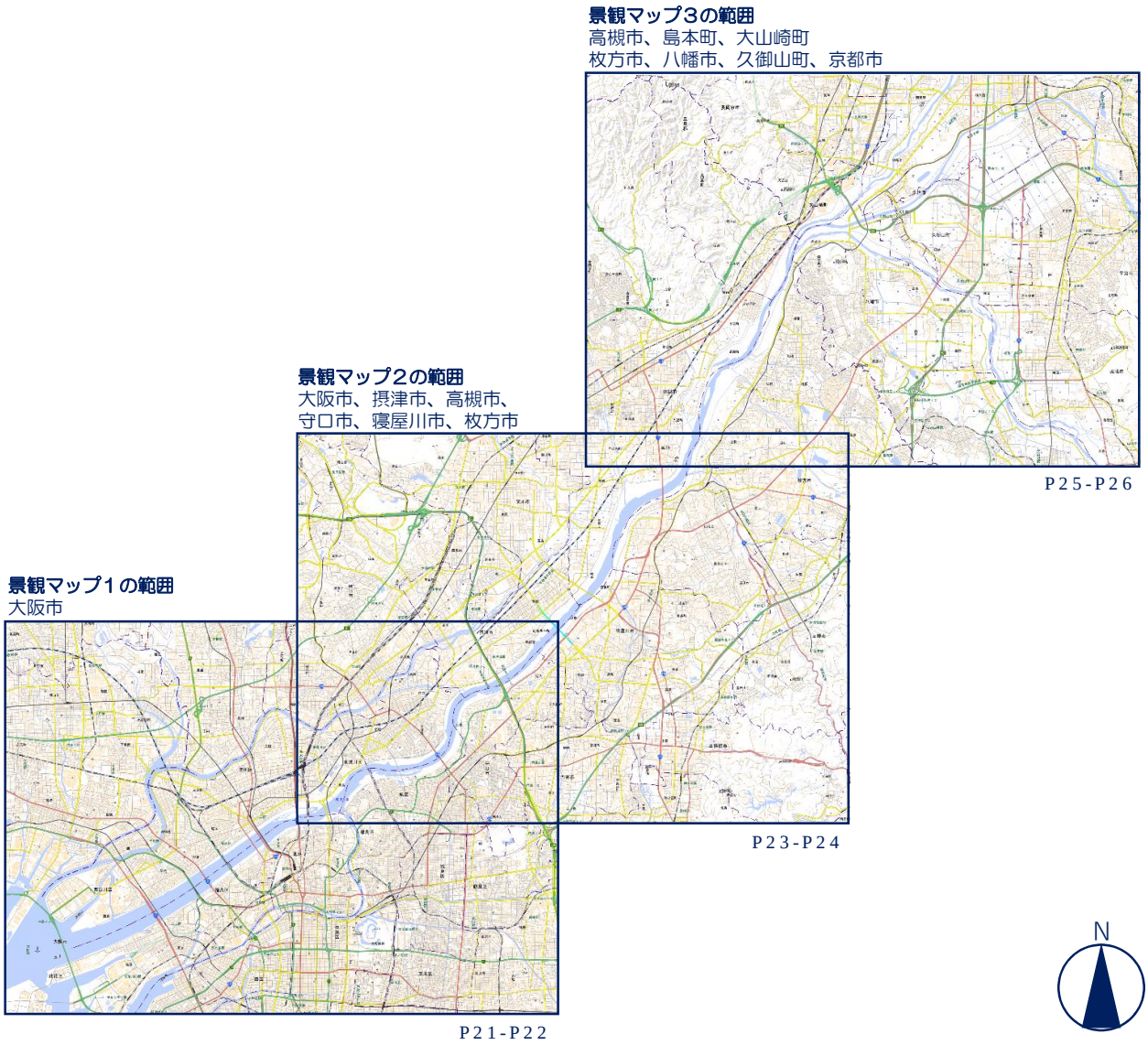
〇主催：
　新潟市、株式会社スノーピーク

〇後援：
　ミズベリングやすらぎ堤研究会

＜実施プログラム＞

- 手ぶらでBBQ
- 飲食ブースの出店　　など

淀川の魅力ある景観マップ



範囲案内図

淀川の魅力ある景観マップ　1

1 新伝法大橋
1969年完成
(L=約860 m)

2 伝法大橋
1942年完成
(L=約765 m)

3 大塚切れ洪水碑

写真提供:大阪市西淀川区役所

1917年に高槻市の大塚で堤防が決壊し、高槻市から下流の大阪市まで甚大な被害をもたらしました。浸水した水を排水するために西淀川区の堤防で「わざと切れ」が行われました。

4 海老江干潟

5 淀川大橋
1926年完成
(L=約724 m)

6 海老江緊急用船着場
距離標左岸5.1km付近
バース長約70m/エプロン長約13.0m

7 花川干潟

8 大淀干潟

9 なにわ淀川花火大会
1989年から開催
2006年に平成花火大会から改名

写真提供:なにわ淀川花火大会運営委員会

毎年8月初旬に、淀川河川公園西中島地区と十三野草地区、大淀野草地区一体を主会場として開催しています。なにわ淀川花火大会運営委員会により、企画・実行され、地元商店、市民等の寄附により運営されています。

10 新北野緊急用船着場
距離標右岸6.3km付近
バース長約60m/エプロン長約7.0m

11 新十三大橋
1966年完成
(L=約792 m)

12 十三渡し

13 十三大橋
1932年完成
(L=約681 m)

14 梅田スカイビル

写真提供:
積水ハウス梅田オペレーション株式会社

撮影:2018年5月16日午前10時58分

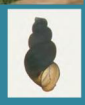
展望台から見える夕日は絶景として根付いています。施設内では、日没時刻を掲示する等の自然景観を楽しむための工夫がなされています。
また、その特徴的な建物形態からランドマークになっています。

15 高層ビル群

撮影:2017年12月23日午後6時49分

うめきた2期など魅力的な開発が進む大阪都心部の対岸から望む風景は、静寂な水面と大都市の賑わいとのコントラストが美しい淀川ならではのものです。

16 中津のヨシ原



■淀川の漁業

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図（地理院地図ズームレベル14標準地図）を複製したものです。（承認番号 平30情複、第1242号）
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

凡例　0：自然・生物　0：都市・インフラ　0：歴史・文化　0：活動・にぎわい

ヨシ原は、水の流れを緩やかにするとともに、外敵から身を守るための隠れ家になるので、様々な生物が生息しています。また、ヨシは水の汚れの原因となるリンや窒素を吸着することで、水をきれいにする働きがあり、淀川の自然を守っています。

写真提供:大阪市漁業協同組合

淀川での漁は、現在も十三干潟などの河口域で行われています。天然うなぎやベッコウシジミ、スズキ等が採れ、大阪の食文化を支えています。

■干潟

潮が引くと砂や泥の陸が現れるところを干潟といいます。海水と淡水がまざり合い、養分が豊富なので、様々な生物が生息しています。かつては、淀川にも多くの干潟が存在しましたが、河川の整備や周辺の開発によりそのほとんどが失われました。近年は、自然保全の観点から再生されています。

⇒関連番号：4　7　8　17　20

17 十三干潟

十三干潟は、淀川で最大の面積を持つ数少ない自然の干潟で、潮干狩りに訪れる人で賑わいます。

写真提供:大阪市淀川区役所

18 淀川アーバンキャンプ（2015年から開催）

写真提供:淀川河川事務所

都会にいながら淀川の自然を感じられる取組みです。淀川の魅力を満喫できる、水辺のアクティビティや自然体験プログラムなどを楽しむ人々の活動は、都市部の新たな景観です。

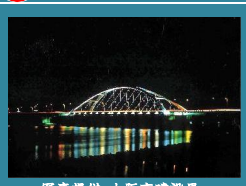
19 新淀川大橋

上流側　1964年完成（L=約794 m）
下流側　1969年完成（L=約813 m）

20 柴島干潟

21 長柄橋

1983年完成（L=約656 m）



写真提供:大阪市建設局

中央部の橋はニールセンローゼ桁というアーチ形の橋が採用されていて、浪速の名橋50選に選定されています。夜間にはライトアップが実施されており、広大な淀川の風景とマッチしています。

22 旧毛馬第一閘門

1907年完成

撮影：2018年9月24日午後1時15分

明治時代に実施された治水工事の際に淀川と旧淀川の船の往来を確保するために設置されました。重要文化財の旧毛馬第一閘門と伊丹空港に向かう飛行機とのギャップに、淀川沿川の移ろいを感じます。

23 毛馬橋

1960年完成　1979年拡幅完成（L=約150 m）

24 春風橋

1981年完成（L=約105 m）

25 飛翔橋

1984年完成（L=約103 m）

26 都島橋

1956年完成　1979年拡幅完成（L=約145 m）

27 源八橋

1936年完成　1971年拡幅完成（L=約201 m）

28 桜宮橋

1930年完成（L=約189 m）

29 造幣局周辺のツツジ

明治時代初頭、衰退していた大阪を蘇らせるため、大久保利通は大阪に遷都しようと蔵屋敷の一部を造幣局にしたとされています。現在でも有名な桜の通り抜けはこの頃から行なわれています。

撮影：2017年4月30日午前10時36分

大川（旧淀川）沿いは、造幣局をはじめ桜が有名ですが、ツツジの咲く季節（春～梅雨頃）も散策の時期としては適しており、川沿いの心地よい雰囲気を体感できます。

30 川崎橋

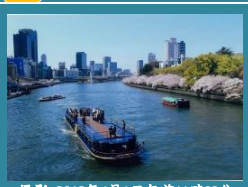
1978年完成（L=約129 m）

31 天満橋

1935年完成（L=約151 m）

32 八軒家浜防災船着場・川の駅はちけんや

33 観光船（八軒家浜船着場周辺）



撮影：2018年4月1日午前11時00分

八軒家浜船着場は、平安時代には瀬戸内と淀川を結ぶ拠点、江戸時代には京都と大坂を結ぶ三十石船が発着する拠点として栄えていました。
現代でも、水の都大阪の拠点として、賑わいをみせています。

34 令和OSAKA天の川伝説（2009年から開催）

（令和2年3月　一部、時点修正）

撮影：2017年7月7日午後7時53分

大阪市中を西流する大川は、かつては「天満川」とも呼ばれ、その川面に満天の星を映す様子は“地上の天の川”のようでした。
現在、七夕の夜に、幻想的な景観を再現するイベントが開催されています。

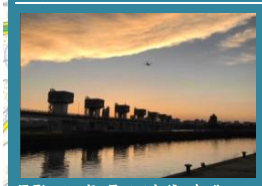
淀川の魅力ある景観マップ　2

1 毛馬閘門・毛馬水門・毛馬排水機場

普段、淀川の水は水門から大川に流れています。高潮や洪水の際は大川の水位が上がるため、排水機場により大堰より下流に排水する仕組みになっています。淀川舟運の定期航路の見所の1つです。

2 淀川大堰

1984年完成



撮影：2017年5月28日午後7時5分

通常、塩水の遡上防止と生活水の確保のため堰きとめていますが、洪水時は、下流に直接放水されます。
等間隔で連続する塔が水面に反射する様子は美しく、時間の変化により、様々な表情を見せてくれます。

3 毛馬緊急用船着場

距離標左岸10.5 km付近
バース長約60m/エプロン長約7.5m

4 淀川河川公園（毛馬地区）

淀川下流域の広大な河川空間の遠方にそびえる大都市のビル群は、摩天楼のようです。

5 柴島緊急用船着場

距離標右岸10.3km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

6 柴島浄水場

7 赤川ワンド

距離標左岸11.0km～11.4km付近

8 おおさか東線淀川橋梁

1929年完成
（L=約615m）

第二次世界大戦の戦火を耐え抜き、おおさか東線の開業に向けて複線化に着手する2013年まで、地域住民の生活道路として利用され、「赤川鉄橋」の通称で親しまれています。

9 豊里ワンド

距離標右岸11.8km～12.0km付近

10 菅原城北大橋

1989年完成、2014年無料開放
（L=約1,356m）

11 城北ワンド

距離標左岸11.4km～13.0km付近

撮影：2018年6月9日午後0時頃

城北公園付近に位置し、天然記念物・イタセンパラの生息場所となるなど、多様な生態系を形成しています。ワンドの環境を守るための活動等により、環境の保全がなされています。

12 平田の渡し（1970年廃止）

13 豊里大橋

14 大桐ワンド

距離標右岸14.6km付近

15 下島ワンド

距離標左岸14.8km付近

16 取水塔（一津屋取水場）

取水塔は、淀川の水を取り入れ、浄水場へ供給するための施設です。
私たちが、淀川の水で暮らしていることを感じさせてくれます。

17 宮ノ下渡し（1954年廃止）

18 庭窪ワンド

距離標左岸16.4km～17.2km付近

19 庭窪浄水場

20 鳥飼大橋

写真提供：守口市

府道2本、近畿自動車道、大阪モノレールの4本の橋で構成されており、交通の大動脈としての役割を担っています。
近辺に群生する葦は秋に色付き始め、淀川の四季を感じられる景観です。

21 佐太緊急用船着場

距離標左岸17.6km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

22 鳥飼の渡し（1975年廃止）

23 鳥飼ワンド

距離標右岸18.8km～19.2km付近

24 鳥飼緊急用船着場

距離標右岸19.6km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

25 淀川わいわいガヤガヤ祭（2012年から開催）

撮影：2018年6月3日午後1時頃

淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会により、毎年初夏頃に開催されます。タイヤチューブと伐木で手づくりしたイカダに体験乗船、淀川クルーズ、水上オートバイ、キッズボートは淀川の魅力を満喫できるイベントです。

26 鳥飼仁和寺大橋

27 点野ワンド

写真提供：ねや川水辺クラブ

28 淀川まるごと体験会

写真提供：寝屋川市

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図（地理院地図ズームレベル14標準地図）を複製したものです。（承認番号 平30情複、第1242号）
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

凡例　0：自然・生物　0：都市・インフラ　0：歴史・文化　0：活動・にぎわい

1987年完成（L=688m）
※自転車の利用料金は10円

周囲の景観とよく調和し、優れた機能美を持ち合わせた斜張橋です。
有料道路として完成され、地域から「100円橋」という通称で親しまれています。

29 点野緊急用船着場

距離標左岸21.3km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

30 淀川新橋

1973年完成

■淀川舟運

自動車や鉄道がない時代、舟運は物資輸送の最も重要な手段で、淀川を人や物が行き交いました。江戸時代には、大阪の八軒家と京都の伏見が三十石船によって、結ばれていました。この淀川の船旅の風景が「都名所図会淀」に描かれています。

また、船が航行する位置を乗客に知らせたとされる三十石船唄は、大阪府無形民俗文化財に指定されています。

◀左図
都名所図会　淀
（国際日本文化研究センター）

31 くらわんか発祥地碑

「くらわんか船」は、淀川を往来する三十船に近づき、酒や食べ物を売る小舟をいい、発祥とされる柱本の淀川堤防上に発祥の地碑がたてられています。現在では、観光船が八軒家から枚方まで定期運航するなど、淀川舟運の活性化が図られています。

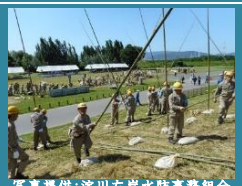
32 三島江ワンド

距離標右岸23.2km

33 芥川合流部

船上から見た合流部の景観。青空、山並み、みどり、水面のコントラストが美しく、芥川の奥行きを感じる自然景観です。

34 水防活動



写真提供：淀川左岸水防事務組合

水防団は、大雨や高潮等の水害から命や財産を守るため、日々活動されています。
淀川左岸水防事務組合主催の最大規模の訓練は、三矢地先で行われる「淀川筋・防潮筋合同水防訓練」で、約400人の方々が参加されています。

35 枚方大橋

1930年完成
（L=689m）

36 大塚緊急用船着場

距離標右岸26.0km付近
バース長約70m/エプロン長約10m

37 大塚切れ

写真提供：高槻市

大正6年（1917年）に発生した暴風雨で、淀川が増水し、芥川堤防が決壊し、淀川本川の大塚堤防が崩壊しました。濁流は、町を次々に飲み込んでいき、大被害をもたらしました。

距離標左岸20.6km～20.8km付近

市民団体等により、清掃活動等の自然環境の保全に取り組まれています。また、近隣の小学校では、自然学習が行われる等の取組みが行われています。

体験会等の市民団体等を主体とする活動が継続的に行われる等、水辺環境の保全・再生の取り組みが活発に行われています。

38 枚方水位観測所

撮影：2018年9月23日午後0時頃

枚方水位観測所は、新しい淀川の象徴として古くから生育する「ヨシ」のように大地に根ざして天に向かって伸びて行く姿を表しています。ここで観測された水位を基に避難情報などが出され、住民の命と生活を守っています。

39 カヌー体験

撮影：2017年9月10日午前10時

淀川河川公園（枚方地区）には広大な芝生広場を有し、淀川の流れを感じながら散策できます。
カヌー体験ができる日もあり、他にも、この地区ならではのイベントが開催されています。
⇒関連番号：41

■淀川の渡し

自動車の普及により、淀川の各所で、橋梁が開通しましたが、それまでは、住民の主要な交通手段として両岸を結ぶ渡し船が淀川の各地で往来していました。
⇒関連番号：12　17　22　40

40 枚方（大塚）の渡し（郵便屋の渡し）（1930年廃止）

枚方の三ツ矢には枚方地方で最も利用の多く親しまれた渡しがあり、郵便物も対岸の国鉄高槻駅まで運ばれていました。

41 枚方宿みなと五六市（2017年から開催）

旧枚方宿の町屋沿いを使用し毎月第2日曜日に開催されている「枚方宿くらわんか五六市」と連携し、淀川河川公園内において「みなと五六市」が同日開催されています。

42 枚方緊急用船着場

距離標左岸26.0km付近
バース長約70m/エプロン長約1.2～5.2m

緊急用船着場は、大規模地震等の災害が発生した際に河川の応急復旧や緊急物資の代替輸送経路などに活用できる施設です。
⇒関連番号：3　5　21　24　36　42

2017年9月からは、船着場を活用し、舟運の定期運航（八軒家浜～枚方）も行なわれています。

43 鍵屋別館

写真提供：枚方市

鍵屋資料館の隣にある鍵屋別館は、4階建てで、カフェや雑貨等の店舗が入っています。上階からは、淀川の自然景観を眺望できます。

44 ひらかたパークの大観覧車

大観覧車は、最頂部約80mで、ランドマークとして親しまれています。観覧車からは、雄大な淀川の景観を楽しむことができます。また、舟運等の水上交通からも望めます。

淀川の魅力ある景観マップ　3

1 淀川河川公園（大塚地区）

写真提供：高槻市

広々として心身ともにリラックスできる公園で、シロツメグサなどのかわいらしい野草が群生する春の季節は特にお薦めです。美しい州浜も見られ、どこかの観光地にいるような錯覚にとらわれます。

2 磯島取水口

3 唐崎ワンド

距離標右岸24.2km付近

4 前島の法面

写真提供：高槻市

毎年春に、上牧地区から柱本地区付近の淀川河川敷では、セイヨウカラシナが黄色い花を咲かせます。河川敷では、散歩やサイクリング、写真を撮る人などが訪れ、穏やかな春の日を楽しんでいます。

5 前島渡し

6 牧野ワンド

距離標左岸30.8km付近

7 鵜殿のヨシ原

写真提供：高槻市

淀川で一番広いヨシ原です。初春にはヨシ原の保全と害草・害虫の駆除、不慮の火災防止などを目的にヨシ焼きが行われ、毎年多くの観光客が訪れます。

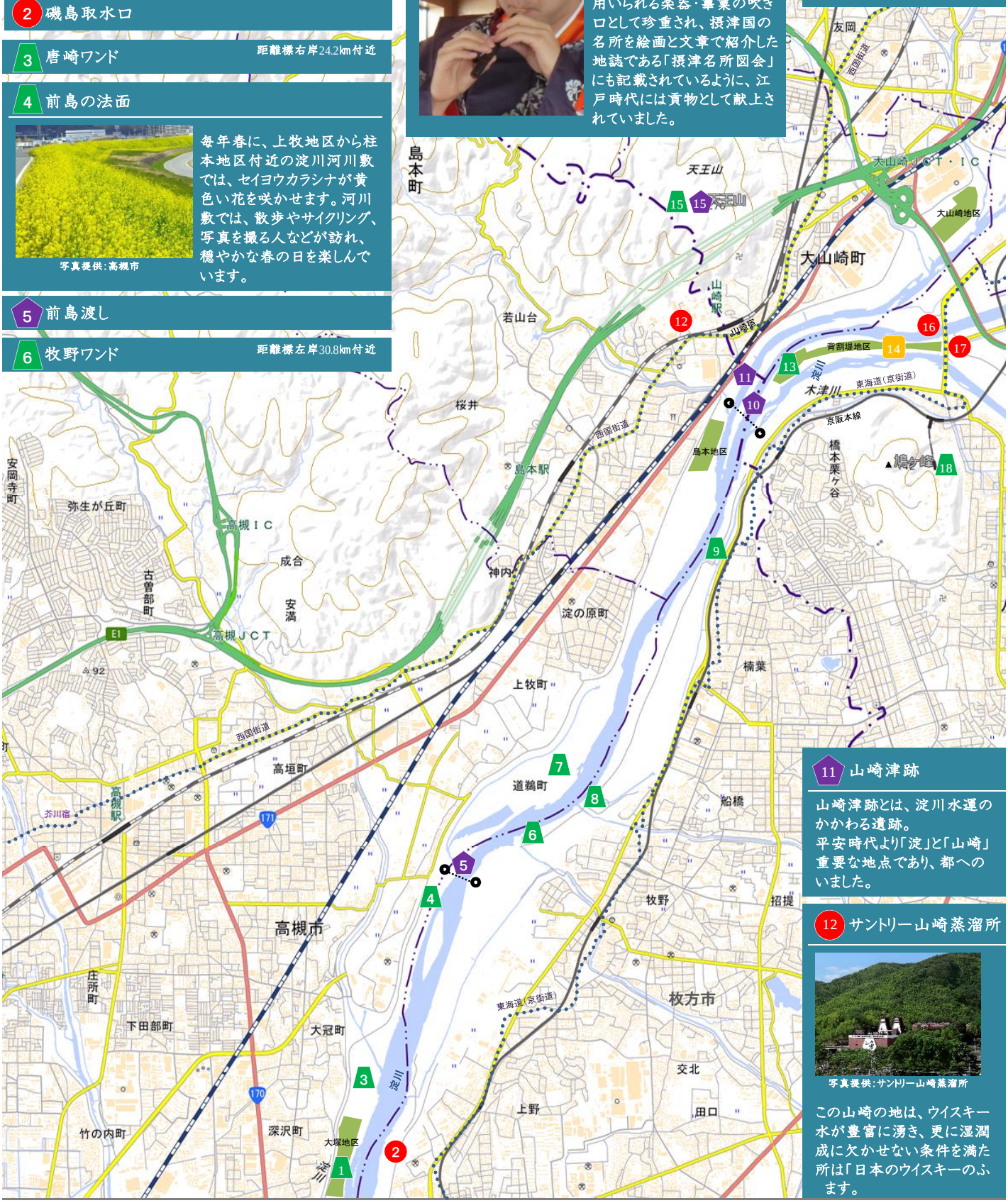
鵜殿に生えるヨシは、雅楽で用いられる楽器・篳篥の吹き口として珍重され、摂津国の名所を絵画と文章で紹介した地誌である「摂津名所図会」にも記載されているように、江戸時代には貢物として献上されていました。

8 樋之上ワンド

9 樟葉ワンド

10 山崎（橋本）渡し

豊臣秀吉による架橋を最後にり、代わって現在の八幡市とた渡しです。西国街道から石河内へ渡る主要なルートであ宮の川港として賑わいました。



11 山崎津跡

山崎津跡とは、淀川水運のかかわる遺跡。
平安時代より「淀」と「山崎」重要な地点であり、都へのいました。

12 サントリー山崎蒸溜所

写真提供：サントリー山崎蒸溜所

この山崎の地は、ウイスキー水が豊富に湧き、更に湿潤成に欠かせない条件を満た所は「日本のウイスキーのふます。

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同時発行の電子地形図（地理院地図ズームレベル14標準地図）を複製したものです。（承認番号 平30情複、第1242号）
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、作成したものであり、第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

凡例　0：自然・生物　0：都市・インフラ　0：歴史・文化　0：活動・にぎわい

距離標左岸31.4km付近

距離標左岸33.4km付近

山崎橋が架橋されなくな
対岸の島本町を結んでい
清水八幡宮への道であり、
ったことから石清水八幡

要である山崎津(港)に

は、南方・西方へ通じる
様々な物資が運ばれて

サントリーの創業者である鳥井信治郎氏は、ウイスキーの熟成に欠かせない条件を満たしていた島本町山崎を蒸溜所の建設の地に選び、大正12年(1923年)に建設に着手しました。
づくりに適した良質な地下な気候はウイスキーの熟しています。ここ山崎蒸溜るさと」として親しまれてい

13 背割堤

写真提供:一般社団法人 八幡市観光協会

大正時代、木津川の付け替え工事に伴ってできた木津川右岸堤防の一部です。全長約1.4kmの圧巻の桜並木です。
当初は松並木が植えられており、「山城の橋立」とも呼ばれていましたが、害虫被害が多く、昭和53年に旧建設省によって、ソメイヨシノ等に植え替えられ、現在の景観となりました。
桜の咲く季節には、祭りも開かれ、観光客で賑わいます。
⇒関連番号：14

14 背割堤さくらまつり

2018年に
八幡桜まつりから改名

写真提供:京都府

散歩しながら、腰を下ろしてくつろぎながら、桜のトンネルをくぐりながら、様々な角度から桜並木の景観を楽しむことができ、多くの観光客で賑わいます。

15 天王山からの眺望

写真提供:大山崎町

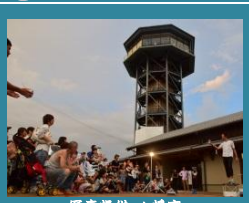
淀川に一番近い山である天王山からも淀川(三川合流)を眺望できます。
1582年6月2日の本能寺の変から11日後、羽柴秀吉が天下取りの足がかりとなった山崎の戦いの古戦場が、淀川とともに窺え、明智光秀が陣取りした地の利が見て取れます。

16 御幸橋

初代1913年完成
2代目1930年完成
淀川御幸橋　2003年完成
木津川御幸橋 2010年完成

17 さくらであい館

2017年完成



写真提供:八幡市

写真提供:淀川河川公園管理センター

淀川河川公園背割堤サービスセンターであるさくらであい館は、淀川三川合流域に立地しており、地上25mの高さから周辺の景色を一望できます。サイクルルートの休憩地点やイベント会場としても、多くの人が訪れる場所となっています。

18 石清水八幡宮からの眺望

日本三大八幡の石清水八幡宮の展望台からは、背割堤やさくらであい館を眺望できます。また、本殿等は、江戸中期の貴重な建築物として、2016年2月、国宝に指定されました。

19 淀大橋

1932年完成
(L=約267ｍ)

20 久御山排水機場

21 巨椋池排水機場

22 宇治川大橋

1966年完成
(L=約546ｍ)

23 巨椋大橋からの眺望(朝の川霧)

撮影:2017年11月27日午前7時30分頃

宇治の河原は、季節と時間で様々な表情を見せてくれます。
川霧の下に、かつて巨椋池が広がっていたことを想像させてくれます。

24 三栖閘門

1929年完成
1964年閉鎖

撮影:2018年3月30日午前11時21分

観月橋から三栖閘門までの築堤によって生じる宇治川と濠川との水位差を解消し、船の航路を確保するため、整備され、経済・文化の発展に大きく貢献しました。
1998年からは、十石舟が復活し、桜の季節をはじめ、賑わいを見せています。

大阪府
住宅まちづくり部
都市空間創造室

〒559-8555
大阪市住之江区南港北1丁目14-16 大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)31階
TEL：06-6941-0351

淀川沿川のまちづくり　検索